

「彦根進出の意思なし」

場外馬券売り場でJRA

派表 対発 致団 誘2

彦根

彦根市原町の場外馬券売り場誘致問題で、反対運動を続けている「場外舟券・車券売場建設に反対する自治会連絡協議会」と「場外舟券・車券売場建設に反対する会」は22日、日本中央競馬会（JRA）から「彦根進出の意思なし」とする内容の文書が届いた」と発表した。

2月定例会市議会では、同市鳥居本学区自治連合会などが提出した設置同意の請願を賛成多数で採択。反対派の両会は請願内容などをもとに、2月14日付でJRAに▽誘致

請願団体とJRAの話し合いの有無▽誘致話に関する見解など4項目の調査を文書で要請した。JRAからは今月16日付で文書が届き、誘致請願団体との話し合いは「その事実はない」と否定し、「（JRAの）意思を確認することなく進め

られている誘致話と承知している」とする内容だったという。「補足」として、「過去にウインズ誘致の申し入れがされているが、98年12月22日に誘致者に進出の意思がないことを伝え、誘致を断っている」とし、「彦根地区へ進出する意思のないことは変わりなく、彦根市長にも進出の意思のないことを伝えている」と書いてある。両会は「場外馬券売り場を誘致しようとする計

画は完全に破たんした。他のキャンセル施設誘致計画の再燃が考えられ、反対運動は存続していく」としている。地元「原地域開発事業推進のための協議会」は「すべて（の条件）が整わないから、（JRA側は）こうした態度しか示さないのは当然のこと。我々は地域活性化のため市長の同意を求め、手続きを根気強く進める」としている。

【松井園夫】

JRA「進出の意思ない」

彦根の馬券
売り場問題

反対派住民団体に回答

彦根市議会が二月に請願を採択した同市原町への場外馬券売り場設置について、誘致計画に反対する地元住民団体は二十二日、日本中央競馬会（JRA）から「彦根地区へ進出する意思はない」と記した文書を受け取ったことを明らかにした。

（徳永博会長）をはじめ、地元の四自治会と二老人会、三つの子ども会でつくる自治会連絡協議会（村井幸子会長）。JRAに対し、誘致計画に関する調査要請書を二月十四日に送付したところ、ウインズ（場外馬券売り場）事業推進部長名の回答書が今月十六日付で届いたという。

（徳永博会長）を明記。地元からの誘致計画については「本会（JRA）の意思を確認することなく進められている」としている。

また、推進派がチラシなどで示している「国宝・彦根城築城400年祭」への支援についても、「そのような約束をした事実はない」と否定している。

たんした。反対運動の「勝利」を宣言する」と話した。

これに対し、誘致を推進する「原地域開発事業推進のための協議会」の関係者は「JRAからは進出しないということではなく、一時凍結だと言っている。今後も引き続き、計画に反対している。獅山向洋市長に同意するよう働きかけていく」としている。

（築山栄太郎）

JRA「彦根進出ない」

場外馬券
売り場

住民グループに回答

彦根市の名神彦根インター付近の場外馬券売り場設置をめぐり、「場外舟券・車券売場建設に反対する自治会連絡協議会」（村井幸子会長）と

「場外舟券・車券売場建設に反対する会」（徳永博会長）は二十二日、「日本中央競馬会（JRA）から『彦根進出の意思なし』との文書を受け取った」と発表した。

両会によると、場外馬券売り場の進出についてJRAに対応を問う文書を送った。JRAウインズ事業部長名で「彦根地

区へ進出する意思のないことには変わりはない」と回答があった。地元の住民グループによる誘致活動について「本会の意思を確認することなく進められている」と記しているという。

両会関係者は「誘致計画は完全に破たんしたと考える」としている。

（秋元太一）

近江同盟新聞

発行所
近江同盟新聞社
彦根市立花町2-63
TEL 23-0066
FAX 23-0067

彦根インター・場外馬券売場

JRA「進出意思なし」

反対の会に
正式回答

市内原町の彦根インター近くに場外馬券売場(場外勝馬投票券発売所)仮称「彦根ウインズ」が計画され、先の市議会三月定例会で設置に同意を求めた請願が賛成多数で採択された問題で、設置に反対する二団体は二十二日、設置主体者の日本中央競馬会(JRA)が「彦根進出の意思はない」とする正式回答を寄せたと発表した。

二団体は周辺自治会と市民などで構成する「場外舟券・車券売場建設に反対する自治会連絡協議会」(村井幸子会長)と「場外舟券・車券売場建設に反対する会」(徳永博会長)。二団体によると、周辺四自治会など十一団体が二月十四日付でJRAに、誘致団体(鳥居本学区自治連合会など)が議

会請願や市議会説明で示した内容の事実関係について調査要請書を提出したのに対し、JRAから今月十六日付の回答書が届いた。回答書はJRAウインズ事業推進部長名の正式文書で、誘致団体が議会請願に記し賛成議員が繰り返し発言した▽彦根城築城四百年祭や環境整備などの交付金

根地区へ進出する意思のないことは変わりない」と明記している。

二団体は「この回答により、彦根にJRA場外馬券

推進団体「今後も進める」

市長同意出ればJRA動く

今回のJRA回答を反対

団体が発表したことに対し、誘致推進団体「原地域開発事業推進のための協議会」(会長 原義和・原町自治会長)は「市長同意がない現段階では、JRAとしないような回答しかできないのではないかと。交付金などは設置すれば当然受けられるメリットを提示している。コンサルタントに

「また鳥居本学区選出で市議会議長の岩崎国次市議も「市長同意を得てJRAに打診すれば(JRA)は動くはず。議会の請願採択に拘束力はないが、現段階ではねじれ現象ともいえる状態になっている」と本紙取材に答えた。

〔関連記事「記者手帳」に

ると承知している」と記し、補足として「当該地区については過去に誘致申し入れがあったが平成十年十二月二十二日に進出の意思のないことを伝えて誘致を断っている。当該地区を含め彦

ついてもJRAとしては交渉途中では明らかにできないのではないかと。推進協議会としては賛同署名も一万近くが増えており、地域活性化のために今後も慎重に進めて市長同意を求めている。

売場を誘致しようとする計画は完全に破綻したものと考える。反対運動の「勝利宣言」をするが、再燃も考えられ反対運動は存続していく」としている。二団体は誘致団体が一時「場外舟券・車券売場建設」を打ち出したため同会名を使用しているが、十年以上に浮上した場外馬券売場計画時から一貫してギャンブル施設誘致に反対している。

記者手帳

2007.3.23

JRA回答で問われる議会のあり方

日本中央競馬会 最多会派の彦政会（八人）（JRA）が彦根は賛成五人・反対三人、新への進出意思が全政ひこね（六人）は賛成五くないことを公式人・反対一人に割れた。市民書で反対する団民コラボ（三人）と会派構成ができない公明（二人）、で、昨年十二月市共産（二人）は全員反対だ議会に誘致賛同をつた。

十二月議会や三月議会では賛成推進立場の議員は、今回JRAが「事実は今全くない」とした市への交付金やコンサルタントの存在などを繰り返して説明し、先進地への会派あがりの視察により「自信をもって間違いな討や先進地調査を行い最適切な施設と結論を出した」との正式回答により、この賛意や議会での発言が根底から崩れ消え去ったわけだ、どう説明できるのだろうか。さらには十二月議会まで反対や継続としていながら、三月議会で一転した議員は何があったのか。その疑問は本紙でも「一部の反対派議員には連日のように賛成依頼の訪問や電話があったとの証言もあるが、会派として拘束しきれない苦渋の窮地」に追い込まれ、個々議員の判断に委ねたようだ」（二月二十七日付）と疑問を呈しておいた。

また獅山向洋市長は、ギャンブル施設反対を公約し議会質問ごとに「反対」を明言しており、請願が採択された日の会見では「不明瞭な点が多すぎる」「議会が請願採択したものであり市長が影響を受けるものではない」などと反対姿勢を改めて明言した。

市長は十二月定例会の質問回答の中でも「前の市長

求める請願が出されて継続審査となり、先の三月市議会で採択された一連の政治的流れが、根底から崩れさりかねないことになった。

三月市議会の採決は開会日の二月二十六日に行なわれ、議員二十五人（議長除く）のうち賛成十四人（反対十一人）の僅差だった。請願紹介議員や誘致推進の急先鋒議員が所属する公会（五人）議長除く四人）は全員が賛成し、採決し、

三月市議会の採決は開会日の二月二十六日に行なわれ、議員二十五人（議長除く）のうち賛成十四人（反対十一人）の僅差だった。請願紹介議員や誘致推進の急先鋒議員が所属する公会（五人）議長除く四人）は全員が賛成し、採決し、

十二月議会や三月議会では賛成推進立場の議員は、今回JRAが「事実は今全くない」とした市への交付金やコンサルタントの存在などを繰り返して説明し、先進地への会派あがりの視察により「自信をもって間違いな討や先進地調査を行い最適切な施設と結論を出した」との正式回答により、この賛意や議会での発言が根底から崩れ消え去ったわけだ、どう説明できるのだろうか。さらには十二月議会まで反対や継続としていながら、三月議会で一転した議員は何があったのか。その疑問は本紙でも「一部の反対派議員には連日のように賛成依頼の訪問や電話があったとの証言もあるが、会派として拘束しきれない苦渋の窮地」に追い込まれ、個々議員の判断に委ねたようだ」（二月二十七日付）と疑問を呈しておいた。

また獅山向洋市長は、ギャンブル施設反対を公約し議会質問ごとに「反対」を明言しており、請願が採択された日の会見では「不明瞭な点が多すぎる」「議会が請願採択したものであり市長が影響を受けるものではない」などと反対姿勢を改めて明言した。

市長は十二月定例会の質問回答の中でも「前の市長

// 彦根に場外馬券場進出せず //

反対運動17年の勝利

住民団体が宣言

県議会でも同年六月に森しげ県議が誘致にからむ不正融資などを追及してきました。

滋賀県彦根市の名神インター付近の場外馬券売場誘致計画に反対してきた自治会など十一の住民団体は二十二日、「JRA（日本中央競馬会）から今年十六日付文書で『進出する意思はない』と回答を得ました。十七年にわたる反対運動の勝利です」と発表しました。

JRA回答は「平成十年十二月二十二日に当時の誘致者に対し、本会として進出の意思のないことを伝え、誘致をお断りしております。本会として（当該地区を含め）彦根地区へ進出する意思のないことに変わりはありません」としています。

JRAは「裏の話」などの事実をまったくないとは明確に否定していません。

JRA回答は「平成十年十二月二十二日に当時の誘致者に対し、本会として進出の意思のないことを伝え、誘致をお断りしております。本会として（当該地区を含め）彦根地区へ進出する意思のないことに変わりはありません」としています。

誘致団体は、市議会に設置同意請願を提出し、「（JRAと）裏で話している」などと説明。請願が採択される事態に、反対自治会などがJRAに問い合わせています。

住民は「文化学園都市の城下町にギャンブル施設はいらない」とねばり強く運動を続け、日本共産党は昨年四月、国会で穀田恵二国対委員長が、

「場外舟券・車券売場建設に反対する会」の徳永博会長は、「JRAが進出意思なしと文書回答したのは全国でも初めてでしょう。四自治会がねばり強く運動し、獅山向洋市長もがんばってくれた。共産党の追及では官公庁の対応が大きく変化しました。みなさんの支援に心から感謝します」と話しています。